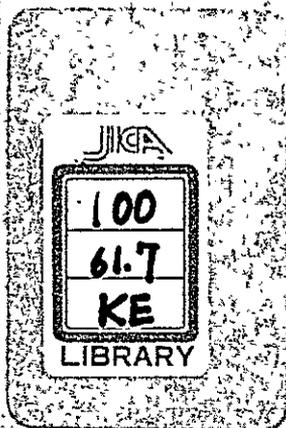


メコン河開発諮問委員会 第4回会議および幹事会 議 事 録

- I 諮問委員会第4回会議議事要約
- II 幹事会議事要約

昭和43年12月

海外技術協力事業団
開発調査部



国際協力事業団	
受入 月日 84. 5. 21	70000
登録No. 1716	61.7
06123	KE

I メコン河開発諮問委員会議事要約

1. 会議の概要

日 時；昭和43年12月19日

場 所；経済団体連合会会議室

出席者 (敬称略)

委員長 井 上 五 郎 (海外技術協力事業団 理事
動力炉・核燃料開発事業団理事長

委 員 安 西 正 夫 (昭和電工株式会社 社長
経済団体連合会 経済協力委員会 委員長

" 渋谷 信 一 海外技術協力事業団 理事長

" 鈴木 源 吾 日本銀行 監事

" 柳 田 誠二郎 (経済協力基金 総裁
海外技術協力事業団 顧問

幹 事 新 井 義 輔 電源開発株式会社 監事

" 久 我 通 武 アジア経済研究所 理事

" 吉 田 良 三 日本工営株式会社 プロジェクト部長

園 田 晋 昭和電工株式会社 常務

事務次長 大 戸 元 長 海外技術協力事業団 常務理事

" 渋谷 正 一 海外技術協力事業団 常務理事



事務次長 徳 野 武 (電源開発株式会社、囑託
海外技術協力事業団 参与)
岡 田 事務官 外務省経済協力局技術協力課
足 立 事務官 外務省経済協力局技術協力課

2. 各委員の発言要約

(井上)

メコン関係予算の大枠としては1億2,000万円程度が考えられているが、その内容となるべき諸計画の問題点をとりあげて論議してみたい。7乃至8カ年の歳月をかけたSambor 計画の最終レポートは明年8月か9月のメコン委員会に提出される予定である。そのレポートの内容の方向は大体決まったようである。パ・モン計画、ベトナムの問題、その他今後の計画をとりあげることとしてこの会議のはじめにこれまでの経過の概要説明をお願いする。

(階堂)

本年度メコンプロジェクトの経過報告

- サンポール計画
- 大湖沿岸開発計画

○ノンカイ/ガイエンチャン架橋計画
および12月17日開催の幹事会の経過報告

- 農業開発(福田案)

リエンソール案とは別個に、本流計画に影響しない地区で中小規模の開発を行いデルタ開発のモデルとしたい。

- 漁業開発(白石案)

メコン流域の魚類の生態が不明であるのでその調査を考えるべきだ。

- 電気通信開発(土居案)

ECAFEでは多国間の開発のみをとり上げているが個々の国では余りとり上げてはいない。この点、ラオス、カンボディアのマスター・プランを作って協力してはどうか。

- ベトナムの開発(千賀案)

ベトナムのデルタ開発を今後大いにとり上げる必要あり、またミトワン橋梁の建設にも協力すべきだ。ベトナム復興についてはJoint Study Groupで経団連も協力の予定である。

- 舟航開発(加納案)

ECAFE主催のRegional Seminarではコンテナ化の問題がとり上げられたがサイゴンなどでも考えられるのではないか。

以上の経過説明を行った後結論として個別計画と全体計画の調整が必要で

あると述べた。

(井上) ポスト・ベトナムの問題は十分慎重に考えるべきことであるが今回の議題から除いて審議したい。

(柳田) メコン委員会の計画と個々の計画との区別はどうなっているのか？ その点ははっきりしていれば我々の仕事がやり易い。またメコン開発に対する日本政府の姿勢は今後どうなるのか？ それによって基金の協力の態度も決まってくると思う。

(鈴木)

メコン・マンスリー・ブレタンの紹介を行い、prek Thnot 建設資金調達における日本とカンボディアの協定およびCoordinatorの役割について言及する。

(柳田)

メコン開発に日本が冷淡であるという印象を与えることは望ましくない。然し、何億ドルというSambor計画に資金を出すということも現実問題として難しい。その点、小規模な計画を手掛けて完成するという方針はどうか。基金としても小さいものには協力できる。大きいものには技術上の協力を行うということはどうか。

(波沢)

幹事会では考え方としてバラバラな点がみられたので、その点どのように調整するか御教示願いたい。メコン委員会の要請としてはデルタ、漁業、通信、アルミ、大湖沿岸などの開発があり、カンボディアとしてはデルタ(タケオ近辺)の調査要請があった。

(渋谷・信)

デルタ開発は今後日本が相当踏み込まなければならぬ。カンボディアもあるが、むしろベトナムを優先すべきではないか。聖域(バオダイ教)の国境地帯をとり上げてはどうか。

(昭和電工安西社長出席し、園田常務を紹介する)

(井上)

福田案はカンボディアがやって欲しいと言っているのか？

(渋谷)

その通りである。

(渋谷・信)

ゲート、ポンプのみで800ドル/haは高いと思うが。

(渋谷)

資金回収の可能な電気通信がよいか、またアルミなどがよいか、それらの点につき事務局に御教示願いたい。

(渋谷・信)

福田案は、オランダのデルタ協力、リリエンソールのデルタ協力のことを考えると、今やることはないのではないか。それよりも通信などがよいのではないか。

(渋谷)

それでは福田案については踏査程度をやってみたらどうであろうか。

(吉田)

カ国にかたよるのはどうかと久保田社長は述べていた。今迄ベトナムでは成果を上げられなかったが、今後これまで手掛けたものを継続してやったらどうか。またデルタ開発に関連してスタントレンの踏査程度は日本でも考えてはよくはないか。

(渋沢)

踏査だけやって勧告を行うということにしたらどうか。

(渋沢・信)

懸案事項としたらどうか。

(渋沢)

シアヌークビルのアルミの問題に関してこの地域に日本が将来進出できるかどうかにつき論議をお願いします。

(園田)

感じだけで述べさせて載くと、アルミだけで Sambor の電力を消費するとすると最低40～50万トンのアルミに相当することになり、コストを2.5ミルとすると値段は相当高くなる。また Sambor とシアヌークビルの500 Kmの距離の送電方式も問題となる。

(徳野)

Pa Mongが完成した場合、Stung Trengが280万kW、Sambor 210万kW、その他を合すると約700万kWとなる。その半分をアルミに使用すると電力コストは2ミル程度となり年産70万トンのアルミを想定することができる。

(井上)

もし、シアヌークビルのアルミが日本にとって魅力がないとすると、これ

は世界的な立場で論議されることになる。現在アルミの生産は50万トン、10年後には100万トンになると予測されるが、その時日本がその場所に進出するべきかどうかということになるが……。

(園田)

カイザーのガーナにおける例をみると、電気が安いことと共に資金、国情の安定、労働力の問題がアルミ産業の大きなファクターとなっている。

(井上)

ガーナのような状況が揃っていなければ日本としてはシアヌークビルに出られないとすれば、アルミ調査は引受けられない。

(安西)

インドネシアの方が魅力的(電力コストが安い)となるとシアヌークビルに進出するという事は、考えなくてはならない。何れにしても、民間企業の外地進出に対する日本政府の保証がないと難しいことだ。

(井上)

日本が出ないとすると外国企業が進出して来るということは明らかである。

(鈴木)

外国(世銀)などが出て来る場合それらと協力してやるという前提で考えたらどうか。

(安西)

外国と提携してやるというのがよいと思う。今後の傾向がそのようだ。

(渋谷)

Sambor のレポートにも関連するのでフィージビリティ調査程度のものをやってみたらどうか。

(井上)

その程度のものが考えられる。

(久我)

アジ研で考えていることを述べてみると、大きなデルタ地帯は別として、本流に影響しない地帯で日本で行った構造改善と似たようなことを考えてみたらどうか。大きなダムができるということも結構であるが、小さくとも地域住民が喜ぶことを考えたらどうか。

(井上)

小さなものをやってみる場合、それが駄目になった時、かえって逆効果となりはしないか。余り期待をもたせるようではまずい。ただ面白い考えではある。

(渋沢)

スタントレンについてはどう考えたらよいか？

(井上)

踏査が簡単にできるのであればやってみたらどうか。3年で50～60万ドル程度を考えればよくないか。

(大戸)

スタントレンは、現在行われている地質調査などを考えると、資料の利用などの点で明後年の方がよくないかと思う。

(井上)

スタントレンを日本がやるとは言えないが、将来当然考えるべき重要な地点であると書いておくことはできると思う。

Ⅱ 幹事会議事要約

1. 会議の要約

日 時：昭和43年12月17日

場 所：三井クラブ

出席者（敬称略）

幹 事	新 井 義 輔	電源開発株式会社	監事
"	沖 田 守	海外経済協力基金	理事
"	加 納 治 郎	阪神外貿埠頭公団	理事
"	小 林 泰	水資源公団	計画担当理事
"	千 賀 鉄 也	経済団体連合会	常務理事
"	福 田 仁 志	（東京大学 名誉教授 海外技術協力事業団	参与
"	村 田 恒	三井物産株式会社	取締役参与
"	吉 田 良 三	日本工営株式会社	プロジェクト部長
"	渡 辺 時 也	中部電力株式会社	常務取締役
	白 石 芳 一	農林省淡水区水産研究所	日光支所長
	新 村 久	昭和電工株式会社	

事務次長 大 戸 元 長 海外技術協力事業団 常務理事

" 洪 沢 正 一 海外技術協力事業団 常務理事

" 德 野 武 (電源開発株式会社 嘱託
海外技術協力事業団 参与

三 島 技 官 通産省技術協力課

2. 各幹事の発言要約

(渋沢)

本日のメコン委員会では、メコン 関係の来年度の予算要求は1億2千万円につき論議することにして、これとは別個にベトナム戦後対策についての予算が開発調査につく予定であるが、この問題は1億2千万円の中で大きな割合を占めることは望ましくなく、本日の会議からはずすことにしたい。

(階堂)

現在までのメコン関係業務の経過を述べると、

1. Sambor レポートに関しては、ドラフトレポートの再検討がメコン委員会シャープ事務局長から正式に要請された。明年9月この Sambor レポートは Pa Mong のものと合せて審議される予定であり、現在「Sambor Project Report 取りまとめ方針」(配布資料)にもとづき当方で作業中である。
2. Nongkhai/Vientiane 橋梁計画の第2次報告書が吉田団長より関係国政府とメコン委員会に対し提出された。
3. 上記と関連するラオスの鉄道調査(タナレン→ヴィエンチャン間約2.0 km)の鉄道調査を実施中。
4. 大湖沿岸調査を実施中。

(渋沢)

来年度の予算要求につき事務当局案を説明したい。

(階堂) (本日配布の諸資料につき説明)

- トンレサップの漁業調査
- デルタ開発(これに関してはオランダとメコン委員会が折衝中とのこと)
- 8支流のうち Stung Pursat 計画調査
- アルミ工業調査
- 通信開発(特にラオスの通信開発)

などが案として考えられる。

(渋谷)

この点 Sambor を有利にするためのプロジェクトを考えるか、又は個々のものに重点を置くか考慮中である。特にデルタ漁業、通信、その他の開発に関連してそれぞれ担当の方に説明をお願いしたい。

(福田)

今後、日本が採り上げるべきものとしては、農民が水のコントロールに早く馴れるという意味で中小規模の農業開発を考えたい。規模としては本流に余り影響を与えない程度とし、時間的には5～7年で完成するものを考えたい。リリエンソールなどが考えるダイキング、ゲート、キャナル、ポンプなどのコンビネーションによって200万haを7地区に分割して開発するという計画があるが、その小規模なものを考えることにして、その中にDemonstration farmを併行的に要所に設置することにした。Kg. Cham地域 84,000ha、ブノンベンの30,000ha、ブノンベン北部 34,000ha などではダイキングがすでにあると考えてよく、これにゲート、ポンプの取付を行い、デモンストレーション・ファームの配置を考えるという程度のもを将来の本流計画と齟齬しない範囲でやってみたらどうか。これらの建設費は\$800/ha程度と考えられる。

(吉田)

デルタのマスター・プランとの関連は？

(福田)

マスター・プランはリリエンソールとオランダがやるものとする日本はどこを採り上げるべきか問題だ。むしろデルタ上流部がよくはないか。

(村田)

Pa MongなどによるFlood controlとの関連は？またメイズはKg. Cham周辺か？

(福田)

本流と関係しない地点をスポット的に入っていったらどうかと考える。

(大戸)

メイズに関しては輸送の点で Bassac(ブノンベンから 20 km 程度) にモデル・ファームを置くことを考えている。

(小林)

福田さんの察は地についたものであり賛成するが、吉田さんの言われたマスター・プランとの関連はどうか？ またダイキングは道路とすると 800 / ha は高くはないか？

(白石)

カンボディアには約 200 種の魚があり、そのうち 15 % は海から遡行してくる。また、トンレサップやメコン河で生れた魚は広い範囲を回遊、つまり関東から東北までを移動していることになる。雨季には多く、乾季には全然とれないという事情、また大湖では周年、Stung Treng では年 1 度であるが、短期間大規模な漁獲が行われており、数センチのものまで採って仕舞うので資源の減少が叫ばれている。

統計上カ国の蛋白質源の 42.6 % が魚であり、そのうち 90 % が淡水魚であるとされているが、実際はもっと多いと想像される。将来の水資源開発と併行して魚資源が存続できるかという点では不明であるが大きな影響が出ることは明らかである。先ず、ダムの影響によって魚の遡上が不能となることが予想される。この地域の魚の回遊、産卵の実態が不明であり、Sambor の漁業調査も当然その一部として考えられなくてはならぬ。また、ダムの導水路の水をただ流すだけではなく養魚場のようなものを設置してはどうだろうか。生態的な調査は流域全体としてとらえる必要があり、貯水池の問題は地点として解決することにした。今後の計画には以上のような考え方を導入して欲しい。

(土居)

通信開発の点について、ECAFEは域内各国間の通信をどうするかということに重点をおき、各国内の通信の実態を余りよくつかんでいないようである。メコン委員会は水の情報を流すということだけを目指しているようだが、行政、軍事、警察その他の面で通信の向上は必要のことと思う。タイは電気通信の拡大計画をテレビを含めて着々と実施しており日本も相当の援助を行っている。ベトナムは戦時下にあるが、ラオスではOTCAの援助計画、またアメリカから援助もあるようだ。カンボディアはフランスの援助があるものの一向に進まないようなので、この際カンボディアが実行できるようなものを作ってやる計画はどうであろうか。

(千賀)

ベトナム側の希望としてデルタの総合開発、ミトワン橋梁建設などの推進があるとし、またベトナム戦後復興に関する彼等のStudy group作成の計画につきコメントを与えるため経団連の少数メンバーが明年1月下旬現地訪問の予定である旨述べた。

(加納)

先般シンガポールで開催されたRegional Port Seminarに出席したが、港湾開発におけるコンテナ化の問題があった。この地域ではサイゴン港をコンテナ化と関連して将来を考える必要があると考える。東南アジアを担当する中小船舶会社を集めてこの問題を検討したらどうであろうか。

(新村)

アルミ産業について述べると、先ず政情が安定しているということが必要で、規模は最低20万kWの電力があり、アルミナの大量輸送が可能であるという条件が整い、港湾設備があれば結構である。(渡辺氏の“電気さえあればよいか”との質問に対し) アルミナは他所からもって来るという事は世界の各所でみられる例である。

(千賀)

カムラン港は水深20米あり、ダムの電気を利用してアルミ産業も考えられる。

(渡辺)

それは別途予算で考えたらよいと思う。本日の会議では農業はコンパクト、水産は極めて広範囲で仲々不明の点が多い、それに通信などを考えると各分野のピッチが合わない点があるようで、この点もう少し考える必要があるように思われる。

(千賀)

カンボディアではシアヌークビルを自由化したいとの希望があるようで、その関係者とこの工業化の問題を經団連でも討議したいと考えている。

(新井)

これまでの種々の計画は発電ダムだけに固執しない点結構であると思う。

